

ヤングケアラー

家族の世話を担う子

小6の15人に1人

大学3年6.2% 学校生活・就職に影響

大人の代わりに家族の世話をする「ヤングケアラー」が小学6年生の15人に一人、大学3年生は16人に一人いることが7日、厚生労働省の調査でわかった。この年代を対象にした全国の調査は初めて。小学生では長時間のケアが学校生活に影響し、大学生は就職とケアの両立に悩むなど、課題の変化も浮かび上がった。

国は昨年4月、ヤングケアラーの実態を初めて調査

した。ただ対象は中学・高校生だけだった。今回は全国の小学6年生(約2万4500人)と大学3年生(約30万人)を対象に実施。今年1月までに各9700件前後の回答を得た。小学6年生で世話をする

家族が「いる」と答えたのは6.5%。ケアの対象は、きょうだいが最も多く71.0%、母親が19.8%

厚労省、実態調査

で続いた。「父母」の世話をする子のうち、父母の健康状態を33.3%が「分からぬ」と回答。子ども本音が状況を理解できずにケアをしている可能性がある。

長時間のケアをするほど小学校生活に影響が及んでいた。ケアが7時間以上の子は学校を「たまに欠席する」が28.9%、3~7時間未満の21.5%を上回った。

就職への不安についても「通勤できる地域が限られる」が13.4%、「休まず働けるか不安」が11.4%であった。(久永隆一)

一方、大学3年生への調査では、世話をする家族が「現在いる」が6.2%、「過去にいた」が4.0%だった。大学進学の際に苦労したことは、「学費などの制約や経済的不安があつた」が26.7%、「受験勉強をする時間がどれだけだった」が21.6%だった。

一方、大学3年生への調査では、世話をする家族が「現在いる」が6.2%、「過去にいた」が4.0%だった。大学進学の際に苦労したことは、「学費などの制約や経済的不安があつた」が26.7%、「受験勉強をする時間がどれだけだった」が21.6%だった。

一方、大学3年生への調査では、世話をする家族が「現在いる」が6.2%、「過去にいた」が4.0%だった。大学進学の際に苦労したことは、「学費などの制約や経済的不安があつた」が26.7%、「受験勉強をする時間がどれだけだった」が21.6%だった。

「無理だ」と言えるように実情知つて

「家族だけで支えるのは無理」。長崎市の団体職員、川原滉介さん(27)は話す。小学生から大学卒業後までの約15年間、うつ病の母を支えた。ひとり親で母と2人暮らしだった。母が精神的に不安定になつたのは10歳の頃。話を聞き、見守るのは川原さんだった。夜、

過剰に眼瞼して倒れ、川原さんが隣の家まで行って救急車を呼んでおられた」ともある。「こわかったけれど、母が危ないこと」をしながら、「いつも気を張っていた。介護や手伝いとは思つたこともなかった」。母のことは友達や先生にもほとんど話せないままだった。

世話をしている家族がいるか(大学3年)

現在いる 6.2%

過去にいた 4.0%

現在も過去もない 89.8%

大学進学への影響

進学するか働くか迷った 12.2

実家から通える範囲などの通学面の制約 13.1

受験勉強の時間がとれない 21.6

学費などの制約や経済不安 26.7

特にない 48.0%

「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」から。いずれも複数回答。結果は抜粋



川原滉介さん
=本人提供

小学生から15年 母を支えた

高校卒業後、専門学校を経て大学に編入し、実家を出て一人暮らしをした。家計に余裕はなく、高校、専門学校、大学とも奨学金を借りた。生活費のためにぎりぎりアルバイトした。「お金の不安はいつもあった」。大学を卒業

した。アラ―のことを知った。経済的な支援に加え、実情を知つてほしいと思う。「子どもがケアの重さに悩んだ時、周りに『無理だ』と言えるよう、社会課題として多くの人は伝わる必要がある」(畠山穂子)

一方、大学3年生への調査では、世話をする家族が「現在いる」が6.2%、「過去にいた」が4.0%だった。大学進学の際に苦労したことは、「学費などの制約や経済的不安があつた」が26.7%、「受験勉強をする時間がどれだけだった」が21.6%だった。